

屏風祭

京都市指定有形文化財
長江家住宅

令和
7年

7月13日(日)
7月14日(月)
7月15日(火)
7月16日(水)

長江家住宅の歴史

長江家は代々呉服卸商を営んでこられました。文政5年(1822)に袋屋町(現・船鉾町)へ入町し、現在の北棟の場所で商売を始められました。元治元年(1864)、禁門の変による大火で家屋は全て焼失してしまいます。その後、長江家は慶応4年(1868)に北棟を再建し、明治8年(1875)に背面裏地に大蔵を移建しました。明治39年(1906)には、商売を拡大するにあたり、南側を買い足し、翌年新たに南棟を建てました。そして大正4年(1915)に、化粧部屋と浴室を新築しました。職住一体の京町家の佇まいを今に遺していることを評価され、平成17年(2005)に京都市指定有形文化財の指定を受けました。

屏風祭

祇園祭の夜に花をそえる屏風祭は、かつて各商家で秘蔵する屏風をみる一年に一度の機会でした。祇園祭の青山に屏風を飾り、人にみせるという習慣がいつからはじまったのかは不明のようですが、古くから八坂神社の氏子町で祭りのときに屏風を飾り、その前で祭り見物が行われていました。現在では山鉾町に限定された行事として、屏風や鉾の模型、染織品、活け花などを展示しています。

参考：岩間香「屏風祭の変遷－近代から現代へ－」
(谷直樹・増井正哉編「まち祇園祭すまい 都市祭礼の現代」、思文閣出版、2008、4章)

令和6年度 主な展示品

番号	作品名	作者・由緒	種別	時代	展示場所
01	日本二十四景	川北 霞峰	屏風	明治期	ミセ
02	春夏秋冬山水図	谷口 霽山	屏風	明治期	ゲンカン
03	ガラス乾板	長江 伊三郎	映像資料	昭和初期	ダイドコ
04	「マッチ」でふりかえる昭和の京都	—	日用品	昭和中期	オク
04	祇園会弦台	羽田月洲	掛け軸	明治期	オク
05	京都ニュース	京都市	映像資料	昭和中期	化粧部屋
06	戦前・戦中期のSPレコード	—	日用品	昭和前期	離れ座敷
06	1970年万博関連資料	—	印刷物	昭和後期	離れ座敷

1階平面図



新町通



01 日本二十四景



02 春夏秋冬山水図



04 「マッチ」でふりかえる昭和の京都



04 祇園会弦召



05 京都ニュース



協力：おもちゃ映画ミュージアム
(一般社団法人京都映画芸術文化研究所)

06 1970年万博関連資料



06 戦前・戦中期のSPレコード

